

財団法人

# 日韓文化交流基金 NEWS



日韓共同研究フォーラム  
第1次研究チーム論文集刊行  
—チームリーダーに訊く—

助成事業紹介  
コリア文化サークル バランセク  
「ワークショップ2001」

2001年度訪日研究者決定  
2001年度上半期助成対象事業

no. 17

2001

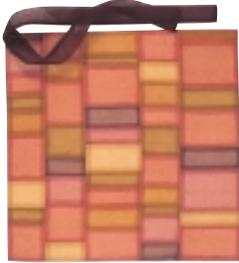
The Japan-Korea Cultural Foundation

表紙作家紹介

# 金賢姫 (キム ヒョンヒ)

- 1946 韓国京畿道生まれ。18歳の時から、刺繍家としての道を歩み始める
- 1984 第9回韓国伝統工芸展に入選。以後毎年、奨励賞、特別賞などの受賞を重ねる
- 1990 東京の高島屋にて「韓国伝統工芸展」招待展
- 1994 国務総理賞を受賞
- 1995 東京の韓国文化院にて個展
- 1996 ソウルの一民美術館にて個展
- 1999 『韓国のパッチワーク-ボジャギ』出版(文化出版局)  
現在、刺繍・ボジャギの「名匠」として作家活動を行うかたわら、伝統工芸建築学校にて後進の指導に当たっている

表紙作品



唐草模様チヨガッポ  
40x40センチ 一九九三年

表紙撮影：縣 正三

# 日韓文化交流基金NEWS

## 目次

- 2 巻頭エッセイ  
2002年W杯と日韓関係 大島裕史
- 作家紹介および表紙作品題名
- 3 図書センター最新動向
- 4 日韓共同研究フォーラム  
第1次研究チーム論文集刊行  
チームリーダーに訊く
- 6 学術文化研究者交流事業  
2001年度訪日研究者決定
- 8 助成事業紹介  
コリア文化サークル パランセク  
「ワークショップ2001」
- 9 2001年度上半期助成対象事業
- 10 日韓文化交流基金事業報告
- 12 調査ノート  
日本における韓国・朝鮮研究 図書館編 1

チケットの予約受け付けも始まり、日本と韓国の共同で開催される二〇〇二年のワールドカップも、いよいよ近づいてきた。これからは、四〇〇日前、一年前と次第に雰囲気は盛り上がっていくに違いない。

二〇〇二年のワールドカップが、日本と韓国の共同開催に決まったのは、九六年五月三十一日のことである。両国の激しい招致合戦の末に決定した共同開催には、日韓双方にわだかまりがあったのは事実だ。しかし、いくつかのトラブルはあるものの、共催決定は、硬直した日韓関係を融和させる役割を果たしてきた。

近年韓国に行く、日本に対する当たりが柔らくなってきたことを肌で感じる。私は、九三、四年にソウルで留学生生活を送っていたが、その当時はまだ、日本に対しては、相当構えなければならぬところがあった。それが今、日本について、自由に語れる雰囲気になってきている。もちろん、単なる時代の流れという部分もあるだろう。しかし、共同開催のパートナーである日本だけを特別視するのは、いかがなものか」という世論は、日本に対する重い扉を開けさせる大きな要因となった。

日本の韓国に対する見方も、大きく変わった。かつての「キムチと焼き肉の国」というステロタイプイメージから、ファッション、映画、音楽、スポーツと、興味の範囲も幅広くなった。このように共催決定以後、両国の距離は、急速に近づいてきた。ただし、同じ二〇〇二年のワールドカップでも、日本と韓国では、その見方はかなり違う。

日本では、先般のチケット狂騒曲が示すように、いかに、いい試合を観るかに、関心が集中

## 巻頭エッセイ 2002年W杯と 日韓関係

フリージャーナリスト  
**大島裕史**

している。韓国でも、もちろんチケットへの関心はある。しかし韓国では、それに加えて、いかに韓国を世界にアピールするかに、重きが置かれている。市民意識を高め、韓国の文化を世界に広めようとする「文化ワールドカップ」というスローガンに、韓国側の思いが凝縮されている。

それぞれの国に歴史があり、社会状況も異なれば、ワールドカップに対する意識が違うのも、決して不思議なことではない。大切なことは、双方の違いを理解しつつ、日韓それぞれのワールドカップではない、共同開催の意味を、いかに認識していくかではないか。

共催の意義の一つは言うまでもなく、両国の友好関係を深めていくことである。と同時に、スポーツの大会である以上、スポーツ文化の発展という視点も忘れてはならない。

今は日韓双方、互いの国に対する関心が高まっている。サッカーも盛り上がっていくだろう。しかし、日韓関係も、サッカーも、二〇〇二年で終わるわけではない。この雰囲気も、今後にとつなげていくかが、重要である。

ワールドカップは、確かに大きな大会だ。けれども、市民一人一人が、自分にとつてのワールドカップの意義を考えていく必要があるのではない。日韓の関係においても、スポーツ文化の発展においても、二〇〇二年のワールドカップは、ゴールではなく、スタートである。



おしま ひろし

一九六一年東京都生まれ。スポーツを中心に、韓国について幅広く取材・執筆活動を行う。『日韓キックオフ伝説』(実業之日本社)で九六年度ミス・スポーツライター賞受賞。四月末にはNHK出版より、『二〇〇二年韓国への旅』(仮題)を出版予定。



# 日韓共同研究フォーラム 第1次研究チーム 論文集刊行 チームリーダーに訊く

日韓共同研究フォーラムは、日韓両国初の大規模な人文・社会科学分野の共同研究の試みとして

一九九五年に発足し、第1次研究チーム（一九九六～一九九九年）では、

歴史1（前近代史）、歴史2（近現代史）、文化、政治、

政治経済、経済、北朝鮮の七つの分科会で

両国の研究者延べ七十人が参加し、

それぞれの分野における共同研究を実施しました。

現在は、第2次研究チームを実施しています。

このフォーラムの研究成果である論文集の刊行が、

二〇〇一年一月に始まりました。

第一回、第二回配本の経済、歴史1、歴史2チームの

日本側チームリーダーから刊行に寄せてお言葉をいただきました。

## 第1巻『東アジア経済協力の現状と可能性』 （経済チーム）

九六年からスタートした日韓共同研究は画期的な試みと言える。筆者は経済チームに参加したが、研究成果が一冊の本として出版されたことを嬉しく思う。

第1次研究チームの期間を振り返ると、楽しい思い出が多い。ソウルと京都で共同研究会を開催したのははじめ、国内研究会を計七回（一九九九年八月までの分を入れると十二回）開催した。日韓共同研究には七つの分科会があるが、経済チームは最も活発な活動をしたのではないかと自負している。

その大きな原因は、日韓両国共同で中国現地調査の話が持ち上がり、それへ向けての勉強が加わったからであろう。我々は日韓両国が中国という巨大なポテンシャルティを持った国と今後どういふ経済関係を構築できるか、それが二十一世紀の日韓にとって極めて重要な課題であり、そのためには日韓の研究者が一緒に、中国に進出している日本や韓国の企業を見て回る必要がある、と考えた。日本側のメンバーに中国の企業事



第1巻『東アジア経済協力の現状と可能性』日本語版と韓国語版

情に明るい関満博一橋大教授がいらっしやったことも大きな助けでもあり、刺激でもあった。

具体的には、天津（一九九九年八月二十二～二十九日）、青島（二〇〇〇年二月十七～二十四日）へ出かけたが、青島では韓国側チームメンバーも加わり、楽しく且つ充実した現地調査をすることができた。三回目の現地調査を今春、丹東と瀋陽で実施する計画であるが、将来的には極東ロシアや北朝鮮でも実施できたらと思っています。

亜細亜大学アジア研究所教授

野副伸一

## 第2巻『近代交流史と相互認識Ⅰ』 (歴史2チーム)

日韓共同研究フォーラム第1次研究チームの歴史2チーム(近現代史)が三年にわたって行った共同研究の成果が刊行された。全参加者十一名が、十九世紀後半から一九一〇年の「韓国併合」に至る時期の交流と相互認識を、多様な面から論じた内容となっている。

日本の明治維新を契機に、日韓両国の関係は新たな局面に入ったが、人の行き来がそれまでの狭い枠を超えて活発になるとともに、互いの関心に基づいて相互の歴史・政治・経済・文化等に関する言説も盛んに流布された。今日、両国の関係緊密化が論じられているが、十九世紀後半から二十世紀初頭にはそれにも増すものがあつた。もちろん当時の関係は対等なものではなく、日本の膨張政策と、それいかに対処すべきかという韓国側の関心、という大きな時代的制約があつたわけだが、互いに自国の進路を真剣に模索する営みであつた。その多様な実態を明らかにすることは、大きな現在の意味をもつというのが、執

筆者一同の本書に込めた思いである。

なお歴史2チームは引き続き、植民地支配期を対象として現在第2次研究チームの共同研究を進めており、その成果も本書と同様に刊行される予定である。

東京大学東洋文化研究所教授  
宮嶋博史



第2巻『近代交流史と相互認識Ⅰ』日本語版と韓国語版

## 第3巻『国家理念と対外認識 17 - 19世紀』 (歴史1チーム)

この論文集は、単に韓国人研究者が韓国を論じ、日本人研究者が日本を論じた論文を集めたというものではありません。近接した主題について、相手国の歴史を論じた論文が含まれています。自国を論じたものも、主題に相互関連があります。それは、韓国側リーダーの朴忠錫先生と共同研究発足時に「相談し、人的・内容的に相互乗り入れ方式を採ることで意見が一致し、それが実現した結果です。

私がそれを望んだ理由は、主に二つありました。第一は、共同研究である以上、相互に刺戟し、相互に学べるのがよいと考えたことです。一般的に言って、各国の研究者が自国史にたてこもり、その特権的解釈者であるかのように振る舞うのは、望ましいことではないでしょう。その意味で、この共同研究は、私のように主に自国史を研究している者にこそ、貴重な教育的機会となりました。また第一は、近い主題について両国の研究者の間で違う見方や解釈が出てくれば、それ自体、両国の思想状



第3巻『国家理念と対外認識 17 - 19世紀』日本語版と韓国語版

況や研究状況の差異を示し、両国の読者に考えるための刺戟と材料を提供できるだろうと考えたことです。

この論文集は、刊行予定より大幅に遅れ、多くの方々にご迷惑をかけてしまいました。しかし、内容的にはかなり成功しているとは信じています。もっとも、この編者としての自惚れが当たっているかどうかは、むしろ、読者諸兄弟の審判を待つほかはありません。

東京大学法学部教授 渡辺浩

# 2001年度訪日研究者決定

日韓文化交流基金の2001年度の訪日研究支援（フェロースhip）の採用者が決定いたしました。

基金フェロースhipは一般分野（人文社会科学分野の日本研究。韓国の学者・研究者対象）と歴史分野（韓国の歴史、日韓関係史、朝鮮半島に関する研究。日韓等の学者・研究者

対象）の2種です。

2001年度訪日研究フェロースhipの総応募件数は111件（一般61件、歴史50件）で、そのうち35件（一般20件、歴史15件）が採用されました。

## 日韓学術文化青少年交流事業（一般）（氏名가나다順）

氏名	所属・職位	研究テーマ （受入機関）	研究期間
姜明淑	ソウル大学校大学記録管理室 企画委員	戦後（米軍政期）における韓日高等学校教育改革に関する比較研究 （名古屋大学大学院教育発達科学研究科）	2001/7/1-2002/2/28
権海珠	慶尚大学校日本語教育科副教授	川端康成の文化意識研究 - 死生観を通して - （筑波大学文芸・言語学系）	2001/4/1-2002/3/31
金東宣	韓国日報社生活科学部記者	日本型社会福祉制度とその改革過程における研究 （国際大学大学院国際関係学研究科）	2001/4/1-2002/3/31
金昇泳	タフツ大学フレッチャースクール 後期博士課程	1970年代の在韓米軍の規模縮小に対する日本の対応に関する歴史的研究 （慶應義塾大学法学部）	2001/8/1-2002/7/31
金英煥	中央大学校文科大学民俗学科講師	日本映像人類学の理論と実際 （国立民族学博物館）	2001/4/1-2002/3/31
金旺植	梨花女子大学校師範大学 社会生活学科副教授	韓日経済協力の政治経済 （慶應義塾大学法学部）	2001/4/1-2002/3/31
金昌男	東亜大学校経済学部教授	日韓海峡経済圏形成戦略研究 （拓殖大学国際開発研究所）	2001/9/1-2002/8/31
柳相榮	三星経済研究所首席研究員	日韓関係の歴史的転換と「開かれたガバナンス」 （慶應義塾大学法学部）	2001/9/10-2002/9/9
朴奉斗	東義大学校商経大学観光流通学部 流通管理学科教授	日本における中小流通業の情報化と電子商取引 （大阪市立大学商学部）	2001/8/1-2002/1/31
申良淑	仁川大学校人文大学校 英語英文学科副教授	日本及び韓国近代社会の形成に英米文化が及ぼした英米文化の影響考 - 日本を經由した韓国の英米文化受容様相を中心に - （天理大学国際文化学部）	2001/4/1-2002/3/31
申旭熙	ソウル大学校社会科学大学 外交学科副教授	ポスト冷戦期日本の平和論に関する研究 - 「新カント主義的平和」をめぐる議論を中心に - （一橋大学大学院法学研究科）	2001/9/1-2002/2/28
李京美	聖公会大学校社会文化研究所 研究教授	フードシステム変化の韓・日比較研究 - 小売り主導食料流通システムの展開と農業の対応を中心として - （東京大学大学院経済学研究科）	2001/4/1-2002/3/31
李成旭	聖公会大学校外来教授	韓国近代文学における都市性 - 日本近代文学と近代都市性が 韓国近代文学に及ぼした影響に対する研究 - （早稲田大学語学教育研究所）	2001/8/1-2002/7/31
李鍾國	東国大学校北韓学研究所研究委員	東アジア秩序と朝鮮半島の緊張緩和 （東京大学大学院法学政治学研究科）	2001/4/1-2002/3/31
田奉根	朝鮮半島エネルギー開発機構 北朝鮮政策部部員	東北アジア政治安保情勢展望と日本の役割 （慶應義塾大学法学部）	2001/4/1-2002/3/31
秦恩淑	済州大学校人文大学 日語日文学科副教授	日韓古典詩歌の自然観研究 - 隠遁思想の受容による自然の発見を中心に - （奈良女子大学文学部）	2001/12/1-2002/11/30
崔錫信	全南大学校経営大学教授	日韓両国の新世代の消費文化に関する比較研究 （大阪市立大学商学部）	2001/8/2-2002/8/1
崔在喆	韓国外国語大学校東洋語大学 日本語学科教授	日本近代知識人・文学者の韓国見聞記研究 （東京大学大学院総合文化研究科）	2001/12/10-2002/12/9

# 学術文化研究者交流事業

崔哲豪	釜山大学校法科大学法学科 非常勤講師	日本における土地利用計画法制に関する研究 - 未来の国土構造と地方の姿を考える - (京都大学大学院法学研究科)	2001/9/1-2002/8/31
河潤秀	釜山教育大学校社会科教育科助教授	韓・日小学校の社会科教育における一般社会内容体系に関する 比較分析 (福岡教育大学)	2001/4/1-2002/2/28

## 日韓平和友好交流計画事業(歴史)(氏名가나다順)

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
金祥圭	釜慶大学校人文社会科学大学 日語日文学部助教授	天日槍(あめのひばこ)研究 (早稲田大学大学院文学研究科)	2001/9/1-2002/8/31
金承哲	慶星大学校神学大学神学科副教授	仏教との出会いの歴史としての日本キリスト教史の理解と それが韓国のキリスト教に及ぼした影響 (南山大学南山宗教文化研究所)	2001/4/1-2002/2/28
金永眞	延世大学校文科大学史学科講師	南宋代士大夫の行動と思想 (早稲田大学文学部)	2001/4/1-2002/2/28
南基鶴	翰林大学校人文大学日本学科助教授	日本中世における「武威」について (京都大学大学院文学研究科)	2001/4/1-2002/2/28
宋漢鏞	全南大学校人文大学史学科 非常勤講師	日本の植民地教育政策の比較研究-韓国・満州・台湾- (早稲田大学大学院政治学研究科)	2001/4/1-2002/3/31
申圭秀	圓光大学校師範大学国史教育科教授	近代甲申政変を前後にした韓・日交渉史の研究 (九州大学大学院人文科学研究科)	2001/4/1-2002/3/31
禹男淑	梨花女子大学校社会科学研究所 常任研究員	韓日中三国の社会進化論の受容様式に関する比較研究 (東京大学文学部)	2001/4/1-2002/3/31
柳吉東	漢陽女子大学日語通訳科副教授	能を中心とする日本文化の研究 (恵泉女学園大学)	2001/4/1-2001/12/31
李文基	慶北大学校師範大学歴史教育科教授	古代東アジアにおける内朝の形成と展開 - 韓・日・中三国の比較研究 - (学習院大学)	2001/9/1-2002/8/31
李永植	仁済大学校人文社会科学大学 人文文化学部副教授	加耶諸国と倭の交流史研究 - 日本列島の加耶文献と遺跡を中心に - (京都大学大学院文学研究科)	2001/4/1-2002/3/31
李應壽	世宗大学校日語日文科副教授	李人植と日本 (国際日本文化研究センター)	2001/6/9-2001/9/8
鄭根植	全南大学校社会大学社会学科教授	疾病の社会史に関する日韓比較研究-らい政策を中心として- (京都大学大学院文学研究科)	2001/9/1-2002/8/31
崔應九	北京大学外国語学院東方学系教授	『明実録鈔』『鄰国朝鮮篇』から見た明朝時代の中朝関係 (静岡県立大学)	2001/4/1-2002/3/31
許洙	ソウル大学校大学院国史学科 非常勤講師	近代「青年」層形成過程に関する日韓比較研究 (東京大学文学部)	2001/4/1-2002/3/31
洪性鳩	高麗大学校文科大学人文学部 東洋史学科講師	近世東アジアにおける郷村社会の比較研究 - 韓・中・日三国の血縁意識と郷村社会の運営 - (京都大学大学院文学研究科)	2001/4/1-2002/3/31

## 2000年度追加採用者(一般)

2000年度に以下の者が追加で採用されました。

氏名	所属・職位	研究テーマ (受入機関)	研究期間
千守城	慶星大学校文科大学 東洋語文学部教授	日本語の言語文化のあり方考察-韓国語比較論の視角から- (麗澤大学大学院言語教育研究科)	2000/12/1-2001/2/28

# 「コリア文化サークルパランセク ワークショップ2001」



民謡の講習では一節一節、丁寧な指導が繰り返された



講習会の最後に練習の成果を皆の前で発表

「コリア文化サークル パランセク」は、日韓文化交流基金の助成を受け、韓国から講師を招いて二月三、四日の二日間の日程で伽倻琴と民謡のワークショップを開催しました。

「川崎ふれあい館」の自主サークル「パランセク」は、韓国・朝鮮文化に興味を持ち、その文化を学びたいという人が集まり、ハンゲル、伽倻琴、舞踊、チャングなどの講座を開講しています。通常の活動に加えて、練習会や発表などを行っています。今回は念願がなつて池成子先生を招聘し、集中的に伽倻琴と民謡を練習する場を設けました。

このワークショップの講師である池成子先生は、韓国でも有数の伽倻琴演奏者で、成錦鳥カラク伽倻琴散調の首席継承者として内外で演奏活動を行うほか、全北大学校やソウル芸術専門大学などで指導をしています。長年日本で伽倻琴の教授をし、後進を育てています。

一月四日午後は、まず民謡のグループの講習からスタートしました。「珍鳥アリラン」の練習では、まず歌詞の意味から始まり、密陽、京畿などほかのアリランと「南道」のアリランの違いを実演を交えて説明がありました。珍鳥アリランは非常に自由度が高く、歌い手が日本の俳句のように自分の思いを自由に歌にのせることができるといわれます。微妙な音の高さや、独特の節回しを完全にマスターすることは難しく、何度も池先生自らはりのある声を響かせていました。

続く伽倻琴の講習では、初心者が多い民謡のクラスでの歌つことの楽しさを前面に出した指導とは異なり、上級者も多いため厳しい指導に切り替わりました。初級と中級のクラスでは「ノドウル江辺」「サチヨルガ」を学び、上級のクラスでは散調のマスターをめざしました。伽倻琴の代表的なテクニクで、肉声で歌つときのよつな微妙な節回しを表現する「弄絃(ノンヒョン)」は非常に難しく、一言ずつ、一フレーズずつ丁寧な指導が繰り返されていました。

今回のワークショップ受講者は二日間約四十名で、パランセクのメンバーが中心ですが、池先生の直接指導を受けるために、他の場所で韓国の古典芸能を習っている人も数多く参加していました。中には、千葉や、遠く大阪から来た人もいました。参加者のほとんどが録音機を持参してワークショップの内容を録音しており、積極的に講習の内容を吸収しようという姿勢が見えました。

ワークショップの最後に一人ずつ感想を述べて、グループごとに講習の成果を発表しました。参加者からは、「今回のワークショップに参加できてよかった」、「池先生の明るく楽しい教え方からエネルギーをもらうようだったと、充実した内容に満足した感想が多く聞かれました。

池先生は、「韓国でも習う人の少なくなった民謡や伽倻琴を、韓国語の十分にできない日本人たちが習ってくれて、とても嬉しく思う」という感想を述べられました。

近年日本では韓国の伝統芸能や民族音楽に興味を持つ人が増え、公演も多く開催されていますが、実際に学ぶ人はまだ数が限られています。「パランセク」のような地道な歩みによって日本人の韓国に対する理解がさらに深まることが期待できるでしょう。

# 2001年度上半期助成対象事業

2001年度上半期（4月～9月）には、18件の交流事業に対して助成を行うことが決定しました。  
 なお、同時期に募集した出版助成は、助成対象図書の刊行時に広報いたします。

## 青少年・草の根交流 8件

事業名	申請団体	実施期間	開催場所
釜山8大学大学院生日本語・日本文化研修	麗澤大学	6/21 7/3	千葉県柏市・麗澤大学ほか
横浜国立大学・ソウル市立大学校 学生交流セミナー	横浜国立大学教育人間科学部須川研究室	7/1 7/8、8/26 9/2	ソウル、横浜
市民合唱団による「日韓友好コンサート」	日韓ガラコンサート実行委員会	8/1 8/5	ソウル、仁川、水原ほか
第4回日韓環境ギャザリング	全国青年環境連盟（エコ・リーグ）	8/3 8/10	大邱ほか
日韓交流第5回本音で共催！ワールドカップ2002	東京青年会議所	8/9 8/12	東京
日韓学生共同支援による地域祝祭活性化プロジェクト	湖南大学校日本学研究所	8/16 8/25	全羅南道珍島ほか
名護屋・萬徳小学生ホームステイ国際交流	名護屋小学校PTA	8/20 8/30	佐賀県鎮西町、全羅南道潭陽市
日韓障害者音楽バンドの親善交流とバリアフリージョイントコンサート	サルサ・ガムテープ後援会	9/20 9/25	神奈川県藤沢市、秦野市

## シンポジウム・国際会議 4件

事業名	申請団体	実施期間	開催場所
日本文化と東アジア国際シンポジウム	韓国日本学協会	4/27 4/28	ソウル・高麗大学校
2001年度「春季国際学術発表会」の特別講演演土海外理事招請	韓国日本文化学会	4/27 4/29	天安・祥明大学校
国際シンポジウム「朝鮮半島の和解と安定」	日本世界戦略フォーラム	9/6 9/9	東京・ホテルグランドヒル市ヶ谷
日韓地方紙交流フォーラム	日韓地方紙交流フォーラム実行委員会	9/26	仙台・仙台国際ホテル

## 芸術交流 6件

事業名	申請団体	実施期間	開催場所
「アクティブ・ワイヤー」- 韓日デザインの交流展 -	東京タイポディレクターズクラブ	4/27 6/10	ソウル・アートソングセンター
21世紀記念特別展「こころの交流 朝鮮通信使 - 江戸時代から21世紀へのメッセージ -」	京都文化博物館	4/28 7/15	京都文化博物館、福岡県立美術館
「角笛シルエット劇場」ソウル公演	劇団角笛	5/3 5/6	ソウル・LGアートセンター
歌舞伎舞踊ワークショップ公演	舞藝舎	5/10 5/16	ソウル・中央大学校、慶州・現代アートセンターほか
第17回「東京の夏」音楽祭2001内公演『安淑善来日公演「ハンソリとシナウイ」』	アリオン音楽財団	7/10 7/16	東京・かつしかシンフォニービルズほか
沈哲鍾日本公演	アゴラ企画・青年団	9/11 9/17	東京・こまばアゴラ劇場

# 日韓文化交流基金事業報告

## 日韓文化交流会議

一月三十日に第3回合同運営委員会が東京で開催されました（参加者は表参照）。第1回全体会議での文化交流事業に関する提言の推進状況が報告されるとともに、今年六月に開催される第3回全体会議で採択される「日韓文化交流のための提言」の内容について検討を行いました。

1 ~ 3月

## 韓国図書翻訳出版事業

### 「韓国の学術と文化」シリーズ新刊

以下の図書が韓国図書翻訳出版事業の一環として法政大学出版社から刊行されました。

金東哲著、吉田光男訳『朝鮮近世の御用商人 貢人の研究』（原題『朝鮮後期貢人研究』、一九九三年刊行、韓国研究院）

十七〜十九世紀の朝鮮の官庁指定業者である「貢人」は、同業組合をつくって物資の調達と納入、その他の官庁御用を務めていた。本書は、韓国における近世経済商業史研究に

において重要な位置を占める「貢人」をめぐって、従来の研究を丹念に跡づけるとともに、弓角契、馬契、京主人、営主人という具体的な「貢人」の事例分析を通じてその実態を明らかにする。また、近世の御用商人としてのその特異な存在形態と、彼らが利潤を蓄積し、商業資本として成長し、特権化していく過程を追跡して、朝鮮、日本、中国を結ぶ近世東アジア交易史の研究に新たな視角を導入する。

導入手。

### 【合同運営委員会参加者】

日本側		韓国側	
三浦朱門	座長	池明観	座長
平山郁夫	副座長	金容雲	副座長
小此木政夫	副座長	鄭求宗	理事（柳鈞副座長が出席できなかったための代理参席）
熊谷直博	事務局長	徐淵昊	事務局長

## 日韓青少年交流ワークショップ

三月十日（土）十一日（日）の両日、横浜市金沢区の野島青少年研修センターにおいて「日韓青少年交流ワークショップ 韓国語でノゾム」を開催いたしました。これは、学校の授業を通じて韓国語を勉強している日本の高校生と、日本駐在韓国人の子弟が多く通う東京韓国学校高等

部の生徒に合宿形式で交流してもらうもので、今年度より新たに始まった事業です。

今回の研修には、引率の先生方も含めて約六十人が参加し、参加者同士が親交を深めました。詳細に関しては次号にて報告いたします。



韓国高校生訪日研修団。関東国際高校訪問しながら自己紹介

## 韓日文化交流基金 日本文化視察団

日韓文化交流基金の韓国側カウンターパートの韓日文化交流基金の第14次日本文化視察団が、1月25日から1月30日の日程で日本の各地を視察しました。1月29日には当基金を表敬訪問され、当基金理事長ほかとの懇談を行うとともに、引き続き基金会議室にて日本の韓国・朝鮮研究者、専門家との意見交換を行いました。

韓日文化交流基金視察団。日本の研究者、専門家との意見交換（1月29日、於 日韓文化交流基金会議室）



### 【参加者】

李相禹 韓日文化交流基金理事長、西江大学校教授  
 姜永奎 韓日文化交流基金理事、元駐スウェーデン韓国大使  
 朴庸玉 韓国国防研究院研究諮問委員  
 朴源弘 国会議員  
 朴貞子 祥明大学校教授  
 孫世一 韓日文化交流基金理事、前国会議員  
 申東濬 韓日文化交流基金理事、東洋衛星放送社長  
 安秉勲 朝鮮日報社副社長  
 李大淳 韓日文化交流基金理事、前暎園大学校総長  
 崔福実 李大淳氏夫人  
 李爽鎔 韓日文化交流基金理事  
 崔秉烈 韓日文化交流基金理事、国会議員  
 咸錫宰 国会議員  
 金秀雄 韓日文化交流基金理事・事務局長

## 訪日団

団体名	計	男	女	期間
韓国高校生	20	9	11	1/10-1/17
釜山日本語弁論大会 入賞者等	20	6	14	1/30-2/8

## 訪韓団

団体名	計	男	女	期間
日本大学生（3）	20	6	14	3/6-3/15
日本大学生（4）	20	7	13	3/20-3/29

\*2000年度に、当基金が派遣した訪韓団は、8団体（うち大学生4、教員4）派遣人数は159名（うち大学生80、教員79）でした。また、当基金が招聘した訪日団は、14団体（うち高校生1、大学生6、教員5、その他2）招聘人数は270名（うち高校生20、大学生115、教員100、その他35）でした。



釜山日本語弁論大会入賞者等訪日研修団。愛媛県でのホームステイ  
松山水軍太鼓を体験

## 日本における韓国・朝鮮研究 図書館編 ①

## 韓国・朝鮮専門図書館

今回は韓国・朝鮮に関する資料を収集・閲覧サービスを行っている専門図書館をご紹介します。

## 韓国文化院

<http://www.mofat.go.kr/japan>

(駐日韓国大使館ホームページ)

駐日韓国大使館に付設されている韓国文化観光部の出先機関。図書室には韓国の文化、芸術、歴史などを中心に一般的な資料から専門書まで、韓国語資料約1万2000冊、日本語資料約3000冊ほかを所蔵。開架式で、分類は韓国十進分類法(KDC)による。映像サービス室はCD、ビデオやCD-ROM、16ミリ、35ミリの映画を所蔵し、『映画フィルム・ビデオテープ目録』を常置している。館内では韓国関連のCD-ROM閲覧も可能。

〒106 0047 東京都港区南麻布1  
7 32

電話 03 5476 4971

開館時間 10:00 17:00 (12:00  
13:00は昼休み)

休館日 土曜、日曜、祝祭日、3/1、  
7/17、8/15、10/3、年末年始

貸出 図書は2冊2週間まで。AV資料  
は3点1週間まで(個人貸出不可)

## 関西韓国文化院

<http://www.kansaikorea.org>

駐大阪韓国総領事館内にある文化施設。図書、ビデオ、CD-ROMなどの資料所蔵。図書室には約6000冊の蔵書があり、文化、美術、社会関連書籍や學術書、年鑑、統計類など、韓国語、日本語の資料を収集・所蔵している。また、館内でインターネットを利用して韓国関連のサイトを閲覧したり、CD-ROMを見たりすること

ができる。講演会や韓国語講座も開講し  
ている。

〒542 0086 大阪市中央区西心斎橋  
2 3 4

電話 06 6211 3774

開館時間 9:30 16:30 (12:00  
13:30は閉館)

休館日 土曜、日曜、祝祭日、3/1、  
7/17、8/15、10/3、年末年始

貸出 図書は2冊2週間まで。AV資料  
は文化関連ビデオに限り2点2週間まで

## 文化センター・アリアン付設伯陽書院

在日2世の朴載日によって1992年11月  
に設立された。日本語・朝鮮語図書を中  
心として、朝鮮民族の文化と歴史に関す  
る書籍約2万5000冊を所蔵している。  
当館所蔵の梶村文庫(故梶村秀樹氏蔵書)  
は日韓近代関係史および在日朝鮮人関係  
資料などを収集している。田川文庫(故  
田川孝三氏蔵書)は李朝関係図書を中心  
として植民地期の図書および漢籍・朝鮮  
籍本を収集している。その他、多数の在  
日朝鮮人研究者らから寄贈された韓国・  
朝鮮関係図書や近年韓国で復刻された植  
民地期の図書を所蔵する。

〒332 0022 埼玉県川口市仲町10  
31

電話 048 259 2381

開館時間 12:00 19:00

休館日 水曜、日曜、祝祭日、年末年始、  
夏期休館日、その他臨時休館日

貸出 不可

## 錦繡(クムス)文庫

実業家の尹勇吉氏と大学講師の朴鐘鳴氏  
らによって設立された。朝鮮半島に関す  
る図書や美術品など民族文化に関する資  
料を収集・展示している。日本で近年発  
刊された朝鮮半島に関する図書や各種研  
究グループの機関誌など蔵書約2万40  
00冊のほか、ビデオ資料約1100タイト  
ルを所蔵している。全館開架。『愍愍録』  
『朝鮮王朝実録』などの歴史資料の復刻  
本も数多く所蔵している。

〒661 0021 兵庫県尼崎市名神町1  
12 尼産ビル5階

電話 06 429 5101

開館時間 10:00 17:00

休館日 水曜、木曜、祝祭日

貸出 5点2週間まで

## 猪飼野朝鮮図書資料室

<http://www.oap.ne.jp/taichi>

1977年に大阪外国語大学朝鮮語科の塚  
本勲教授(当時)が設立したもので、教  
授が提供した蔵書と研究者や学生らが持  
ち寄った書籍を含めて、現在1万5000  
冊を所蔵している(7000冊開架)。月  
刊雑誌『思想界』全巻や、各種の朝鮮語  
辞典など貴重な文献も多い。

〒534 0023 大阪市天王寺区味原町  
13 8 カネイチ第5ビル402号室

電話 06 6764 5277

開館時間 毎週日曜15:00 18:00

## 基金ホームページURL

<http://www.asc-net.or.jp/jkcf>

ホームページ E-mail: [jkcf@asc-net.or.jp](mailto:jkcf@asc-net.or.jp)

図書センター E-mail: [lib1jkcf@oak.ocn.ne.jp](mailto:lib1jkcf@oak.ocn.ne.jp)

発行 (財)日韓文化交流基金  
〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号  
虎ノ門ワイコービル3F  
電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326  
発行日 2001年3月30日